



KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA

第11回

# 春日井市交響楽団定期演奏会

2002年6月30日(日) 15:00開演/14:00開場



## ごあいさつ



### ごあいさつ

春日井市交響楽団  
名誉会長

春日井市長  
鵜飼 一郎

あじさいの花が日を追うごとに彩りを増し、夏の気配が一段と感じられる季節となっております。

本日は、春日井市交響楽団の第11回定期演奏会にお越しいただき、まことにありがとうございます。本楽団は、昨年9月の10回目の定期演奏会を機に、今また新たな目標に向かって一歩を踏み出したところです。これもひとえに、関係各位および市民の皆様方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今回は、長年にわたり、当楽団の育成指導にご尽力いただいております伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団音楽監督の加藤完二氏を指揮者に、ソリストとして、新進気鋭のホラーク・ミハル氏をお招きいたしました。ピアノと管弦楽との絶妙なハーモニーが会場に広がり、皆様に十分満足していただける演奏会になるものと大いに期待しております。

春日井市では、本年、文化の振興に関する施策の基本となる「文化振興基本条例」を県下で初めて制定します。文化の担い手は市民であることを踏まえ、文化に対する市民の皆様との理解を深めていただくよう努めてまいりますので、本楽団共々、皆様方のさらなるご支援ご協力をお願い申し上げます。

それでは、春日井市交響楽団とホラーク・ミハル氏のピアノ演奏による、素晴らしいひとときをどうぞお楽しみください。



### ごあいさつ

春日井市交響楽団  
会長

中部大学学監  
三浦 昌夫

本日はようこそ、春日井市交響楽団第11回定期演奏会においで下さいました。心からお礼申し上げます。「カポ」の名前で親しまれてきました春日井市交響楽団も、昨年、第10回記念の定期演奏会をベルリオートの大曲「幻想交響曲」で飾ることができました。長年、ご支援下さった春日井市民のみならずファンのみならず、少しでもご恩返しが出来たのではないかと自負いたしております。

この第11回の定演から、また新たなカポの歴史を築いて参りたいと存じます。

今回は、ソリストとして「第12回チャイコフスキー国際コンクール」にご出場のホラーク・ミハルさまをお招きすることが出来ました。ご出演下さいますミハルさまはむろんのこと、お世話下さいました中部大学非常勤講師の金子一也さまにも心からお礼申し上げます。また、今回初めてソリストを一般公募いたしました。結果的には該当者はありませんでしたが、ご応募いただいたみなさまや中日新聞社の穂田晴久春日井支局長には大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、指揮者に加藤完二先生をお願いいたしました。加藤先生は、これまでカポのご指導や指揮にご尽力をいただき、また、昨年の「市民オーケストラ in Kasugai: オーケストラてなに?」では、伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団を率いて、カポとのジョイント演奏会を実現して下さいました。

さらに、今回も、竹本義明・竹内雅一先生をはじめ、多くのプロのみなさまのご指導とご出演による、数々のご協力をえることができました。

「春日井市民に、名曲を、名演奏で」を目標に、いつまでも、春日井市民のためのカポでありますようつとめて参りますので、みなさまのますますのご支援をお願い致します。

それでは、この一年、カポが満を持してお贈りする第11回定期演奏会をごゆっくりお楽しみ下さい。

## プログラム Program

モーツァルト作曲／歌劇「魔笛」序曲  
W.A.Mozart (1756-1791)  
“Die Zauberflöte” Overture K.V.620

チャイコフスキー作曲／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23  
Peter Iljitsch Tschaikowsky (1840-1893)  
Concerto for Piano and Orchestra No.1 B-flat minor Op.23

第1楽章 Allegro non troppo e molto maestoso  
第2楽章 Andantino semplice  
第3楽章 Allegro con fuoco

《休憩》 Intermission

ベートーヴェン作曲／交響曲 第7番 イ長調 作品92  
Ludwig van Beethoven (1770-1827)  
Symphony No.7 in A major Op.92

第1楽章 Poco sostenuto—Vivace  
第2楽章 Allegretto  
第3楽章 Presto  
第4楽章 Allegro con brio

指揮 加藤 完二  
ピアノ ホラーク・ミハル  
オーケストラ 春日井市交響楽団

Kanji Kato  
Hor'ak Michal  
Kasugai City Philharmonic Orchestra



## プロフィール



指揮  
加藤 完二

Kanji Kato

ヴァイオリンを尾島綾子・東儀幸各氏に師事。大阪音楽大学在学中より指揮を学び、卒業後 関西二期会 等で朝比奈隆氏 他の副指揮を務めた。大阪音楽大学でのオペラ指揮を皮切りに、各地でオーケストラやオペラを指揮。特にアマチュアオーケストラのトレーニングは好評。

ルーマニアの「第2回ディヌ・ニクレスク国際指揮者コンクール」入賞 および 審査員特別賞受賞。同国でオペラ「カヴァレリア・ルステイカーナ」他を客演指揮し、海外でも評判を得る。兵庫県新進芸術家奨励賞、伊丹市芸術家協会新人賞を受賞。

現在、伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団音楽監督。大阪音楽大学非常勤講師。

岡山・伊丹・大阪・彦根 そして春日井——

各地のアマチュアオーケストラのレベル向上をめざして、そのトレーニングや指揮に奔走する加藤先生。将来は、と尋ねると「全国のアマチュアオーケストラを上手にしたい」「プロのプレーヤーを輩出できる指揮者になりたい」と「育てる」ことに使命感を感じていらっしゃいます。

世界中を飛びまわる指揮者に、という大きな夢を胸に秘め、愛車プラドで日本全国を走りまわります。

今回はお好きなベートーヴェンのプログラムでもあり、「お客様に感動してもらえ、印象に残る、楽しい演奏をしたい！」と張り切っていらっしゃいます。



ピアニスト  
ホラク・ミハル

Hor'a'k Michal

武蔵野音楽大学 大学院在学中  
現在 エレーナ・アシュケナージに師事（ウラジミール・アシュケナージのご姉妹）  
4才からピアノを始める

- 1996年 第19回宝塚ベガコンクール入選
- 1996年 第20回ピティナピアノコンペティション G級銅賞 審査員特別賞 ソニー賞
- 1998年 第9回埼玉ピアノコンクール F部門銅賞 NTT賞
- 2001年 第71回読売新人演奏会出演
- 2002年 第1回日本チャイコフスキーコンクール 第3位

その他 数々の賞を受賞

6月7日よりモスクワで開催の第12回チャイコフスキー国際コンクールに出場

両親が音楽家なので自然と音楽の道に進んできて、今、自分なりの生き方を模索している若き貴公子という言葉がぴったりの青年です。

チャイコフスキー国際コンクールという世界最高峰の巨大なステージを与えられ、自分の可能性をとことん追求し、大きくはばたこうとしています。

ジャンルにこだわらず、インターネットでの作曲も手がける彼は、広い視野からクラシックを見据えて、新たな風を吹き込んでくれると期待しています。

(オフィスロンド 荒川えり子氏 談)

## オーケストラ 春日井市交響楽団 Kasugai City Philharmonic Orchestra

1990年に春日井市の音楽愛好家を中心に設立された市民オーケストラです。これまで、毎年、夏には定期演奏会を開催し、冬には「春日井市民第九演奏会」に出演するほか、「菖蒲コンサート」（桑名西ロータリー主催：1998年6月）や「菊華コンサート」〔（社）春日井建設協会主催・1999年9月〕をはじめとして、愛環音楽連盟の中心的なオーケストラとして「第二回愛環音楽祭」（2000年3月）を開いてきました。また、松下電気産業と松下精工両社のスポンサーで「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル」とのジョイント（2001年7月）も行いました。昨年9月の第10回記念定期演奏会では、念願だったベルリオーズの大曲「幻想交響曲」を演奏することができ、未来のKAPOへの大きな第一歩を踏み出しました。優れた指導者やソリストと共に、多くの仲間と演奏できる喜びを大切にしながら、「より多くの市民に、より優れた音楽を」の夢を実現するのが私たちの願いです。これからは春日井市交響楽団をよろしくご支援下さい。（団長：花村浩克）

## 曲目解説

歌劇《魔笛》序曲

W.A.モーツァルト(1756-1791)作曲

モーツァルトは死ぬ年の1791年の9月に最後の大作《魔笛》を書き上げました。この歌劇には、モーツァルトが後生の私たちに伝えたいメッセージが「謎」として隠されています。時はまさに、革命の嵐が吹き荒れる疾風怒濤の時代でした。悩める大衆に対して、革命も、自由・平等・博愛も、秘密結社フリーメイソンも、フェミニズムも、啓蒙思想も、すべてをあからさまに語ることは出来ません。そのとき、モーツァルトは、歌劇《魔笛》にこのすべてを託したのです。序曲は、謎の目録になっています。調性は「#」三つのホ長調です。「3」は、「自由・平等・博愛」であり、「フリーメイソンの象徴である三角形：自然と理性と叡智・確固と寛容と寡黙・学問と労働と芸術・高潔と純粋と誠実」であり、ファンファーレもまた、3回なります。静かで緩やかな序奏は、「眠り」であり、主部の速く明るい主題は、「目覚め」です。すなわち、「啓蒙思想」を表わします。「短調」は「混乱と迫害と闇と病気と貧乏」を、「長調」は、「秩序と解放と光と健康と豊かさ」を表わします。私たちが、この《魔笛》序曲を演奏し聴くとき、あだやおろそかであってはなりません。

《ピアノ協奏曲第1番》

ピョートル・チャイコフスキー(1840-1893)作曲

創作意欲に燃えていたチャイコフスキーが初めてのピアノ協奏曲に挑戦したのは、モスクワ音楽院の教授をしていた34歳(1874)の時でした。この新作のピアノ協奏曲に大いに自信を持っていたチャイコフスキーは、モスクワ音楽院の初代院長ニコライ・リュビンシュタインと同僚のピアニストのフーベルトの二人を自分の研究室に招いて、自ら試奏して聴かせました。二人とも誉めるどころか散々に批判して、特にニコライは、「このままでは演奏不可能だ」とチャイコフスキーに強く書き変えを示唆しました。二人に妬まれたと感じたチャイコフスキーは、楽譜をドイツの指揮者でピアニストのハンス・フォン・ビューローに送りました。ビューローはアメリカの演奏旅行にこの曲を携えていき、ボストンで初演をして大成功を収めました。今では、音楽史上最高の人気を誇るピアノ協奏曲の一つです。

第1楽章 はなはだしくなく快速に、そしてきわめて荘厳に・変ロ長調・3/4拍子・自由なソナタ形式。

第2楽章 自然にややゆっくりと・変ニ長調・6/8拍子・三部形式。

第3楽章 火のように快速に・変ロ短調・3/4拍子・ロンド形式。

「交響曲第7番」イ長調 作品92

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770-1827)作曲

「あらゆるボタンを外して書いた」と作曲家自身がいているように、この「第7番」の交響曲は、その屈託のない、おおらかな古典的晴朗さが、何よりの魅力です。1812年、ベートーヴェン42歳の時に完成されました。天才の最盛期に書かれたこの交響曲は、4年前に作られた「運命」や「田園」の特質である「モチーフ展開の緊張感」と「各楽章間の有機的な統一感」を持っていません。あれほどモチーフを扱うこと黄金を用いるがごとく慎重であった彼が、この「第7番」では、湯水の如く、無造作にモチーフを浪費しているのです。この曲を「酔ったときに作ったのだろう」と言ったのは、クララ・シューマンの父ヴィークですが、なるほど彼が言うように酒の神ディオニソスの狂躁感が全曲を支配していて、ベートーヴェンには全く珍しい天衣無縫な音楽となっています。まるでモチーフそれ自身が、作曲家の手を離れて、自由に自律的に展開していくようです。ヴァーグナーは、モチーフのこの自律的な展開を「舞踊が音楽へと聖変化したのだ」といい、浪費家のベートーヴェンが愉快でならず、リストの編曲によるピアノ伴奏で踊ってみせたということです。

なんだか苦悩と勝利の英雄ベートーヴェンの作品らしくないのですが、それはこの「第7番」が初演されたときのいきさつにもよりましょう。1813年といえば、ナポレオンの侵略から解放された国々や諸都市が、戦勝に沸いた年でした。ウィーンでは、都市をあげて戦役傷病兵のための大慈善音楽会を催しました。ベートーヴェンの総指揮、ウィーンの有名音楽家総出演（例のサリエリやフンメルやマイアーベアーもオーケストラの一員として参加していました）によるそれは盛大なものでした。そこで演奏されたのがこの第7番と、交響曲の番号をもたない「戦争交響曲ウェリントンの勝利」（作品91）などでした。